

5. 予算および主要課題

水産試験場

事業名	平成9年度予算
水産試験場運営費	46,036千円
試験研究調査費	31,614
(温水性魚類沿岸帯機能の回復保全研究費)	(5,285)
(湖産アユの質的保全に関する総合調査)	(6,100)
(イサザ等特産種資源対策研究費)	(4,865)
(アユの重要疾病予防対策試験費)	(2,346)
(淡水真珠対策研究費)	(1,623)
(バイオテク応用技術開発研究費)	(2,000)
(利用加工技術開発研究費)	(2,326)
(増養殖技術研究費)	(4,050)
(漁況予報調査研究費)	(1,464)
(漁場環境調査研究費)	(1,555)
水産技術普及指導費	278
人件費	167,251
計	274,467

水産課計上分

事業名	平成9年度予算
栽培漁業総合推進対策費	
(地域特産種量産放流技術開発事業)	(3,000)
(資源管理推進調査事業費)	(5,796)
漁場環境維持対策費	
(漁場環境保全技術開発総合試験費)	(4,000)
養殖漁業振興事業費	
(魚類防疫対策事業費)	(3,600)
計	16,396千円

平成9年度主要事業一覧表

事業名	事業概要
湖産アユの質的保全に関する総合調査研究	<p>琵琶湖産アユ苗は内水面漁業の振興上大きな役割を果たしているため、より躍動感にあふれ、野性味に富んだ種苗に仕立てる技術開発を実施する。</p> <p>1. 優良種苗仕立て試験：①アユ種苗仕立て試験 ②アユ種苗放流試験</p> <p>2. アユの初期成育機構の解明：①成長段階別分布調査 ②生息環境調査</p>
温水性魚類沿岸帯機能の回復保全研究	<p>ニゴロブナ・ホンモロコ等温水性魚類の再生産の場として重要な沿岸帯は著しく荒廃し、琵琶湖の生態系を支えるのに大きな役割を果たしている魚貝類が大きく減少している。そこで沿岸帯の機能を総合的に回復保全する手法の開発調査研究を進める。</p> <p>1. 技術開発：①水生植物植栽技術の確立 ②魚貝類添加方法の決定 ③流入水利用法の確立 ④親魚誘導構造物の検討</p> <p>2. 水域条件調査：①理化学的環境条件調査 ②生物学的条件調査</p>
イサザ等特産種資源対策研究	<p>激減しているイサザやゲンゴロウブナ等琵琶湖特産種の増殖方法を検討し一方、近年増加しているワカサギ等の特産種への影響調査を実施する。</p> <p>1. イサザの再生産助長技術の確立 2. ゲンゴロウブナ等固有種の保全対策 3. ワカサギ・ヌマチチブの影響調査</p>
セタシジミ増殖技術開発	<p>漁獲量の減少したセタシジミの資源培養を進めるため、種苗のより効率的な大量生産や漁場への有効な放流手法を確立する。</p> <p>1. 大量種苗生産効率化試験 2. 効果的な放流技術開発</p>
淡水真珠対策研究	<p>イケチョウガイによる真珠の生産は激減しているため、イケチョウガイを改良した母貝による真珠養殖技術、優良母貝の作出技術開発に取り組む。</p> <p>1. 改良母貝真珠養殖試験 2. 優良母貝作出技術開発 3. 真珠漁場環境調査</p>
アユの重要疾病予防対策試験	<p>アユ養殖の魚病対策として、効果的な治療予防対策技術の確立を目指す。</p> <p>1. 疾病発生状況調査 2. 薬剤試験 3. ワクチン試験 4. 免疫賦活剤試験</p>
河川・湖沼総合浄化促進事業（国庫委託）	<p>琵琶湖および周辺水域の漁場環境の保全を図るため、河川、内湖を含む湖の浄化機能を総合的に促進する技術の開発を進める。</p> <p>1. 湖沼の浄化機能の評価 2. 水草帯の浄化機能の活用技術の確立</p>
新魚種の利用に関する研究	<p>近年、増加している移入魚の有効利用法や、鮎寿しの製造法の検討を行う</p> <p>1. ワカサギの利用法に関する研究 2. パーシャルフリージング法等による鮮度保持技術の検討 3. 鮎寿し短期発酵法の開発</p>